

多様性に配慮した
次のステップの防災へ

誰一人取り残さない 災害対応のために

in OKAZAKI

防災食や防災グッズ等の展示あり

どなたでも参加 OK!

参加費

無料

定員

120名

託児あり

無料

定員 10名



災害ケースマネジメントがなぜ必要か
任意の小規模避難所への期待について
一緒に考えよう!

2023

日程

12月23日(土) 13:30~15:30

会場

岡崎市役所福祉会館 6階大ホール

愛知県岡崎市朝日町3丁目2 (名鉄東岡崎駅北口から徒歩で約13分)

当日オンライン配信

後日アーカイブ配信

趣旨説明

藤岡喜美子 一般社団法人こども女性ネット東海 執行理事

「災害ケースマネジメントとは」

菅野拓氏 大阪公立大学大学院文学研究科・文学部地理学教室准教授
一般社団法人 パーソナルサポートセンター理事

「任意の小規模避難所への期待と可能性」

防災ファーストペンギン☆おかざき

「誰一人取り残さない、災害対応を目指して

～災害ケースマネジメントの重要性とその手順～

田村太郎氏 一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事
復興庁復興推進参与

協定書署名式

岡崎市 × 一般社団法人こども女性ネット東海

トークショー

中根康浩市長、田村太郎氏、菅野拓氏、藤岡喜美子



※土曜日のため、東駐車場のみ使用可能

申込

【当日申込締切】
2023/12/12(火)17時
【アーカイブ申込締切】
2023/12/24(日)17時

ホームページ (<https://cwnt.jp/>)
または二次元コードよりお申込みください。

お気軽に
お申込みください!!





災害発災後、安心して未来に向けて生きるためには、いつまでも緊急時ではなく、できるだけ早く日常に戻すことが重要です。私たち子ども女性ネット東海は、子どもと女性が支援される側でなく、主体となり、日頃から地域とのつながりを強くし、いざという時にその力を発揮できるように地域の仲間と活動しています。私たちは子どもと女性が安心できる任意の避難所開設のための準備をしています。ぜひ一緒に考えましょう。

この活動はまさに、災害ケースマネジメント（その活動の中で被災者一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援が必要だと考えています）と同じ理念であり、今般、任意の小規模避難所を開設する活動の広がりへの期待とともに、今後の岡崎市における誰一人取り残さない災害対応について、議論を深めます。また会場では、防災食や防災グッズ等展示しますので、是非ご覧ください。

登壇者プロフィール



中根康浩氏

岡崎市長

1962年生まれ。岡崎市出身。
85年早稲田大学商学部卒業。88年岡崎市議会議員(1期)。
03年衆議院議員(通算4期)。12年経済産業大臣政務官。
20年10月から現職。

災害時には、せっかく助かった命が災害後の生活上の影響で亡くなられる災害関連死が大きな行政課題となっている。鳥取県などが先進的に取り組む災害ケースマネジメントは災害関連死を防ぐと同時に、被災者の生活再建支援に有効であると知り、岡崎市においても早期の実施体制の構築実現を目指している。



菅野拓氏

大阪公立大学大学院文学研究科准教授

一般社団法人パーソナルサポートセンター理事

専門は人文地理学、都市地理学、サードセクター論、防災・復興政策。社会問題など「やっかいな問題」の解決が一貫したテーマで、その観点から災害対応やNPOなどサードセクターの活動を継続的に調査・実践している。近著に『つながりが生み出すイノベーション—サードセクターと創発する地域—』、『災害対応がパナンス—被災者支援の混乱を止める—』(いずれも単著、ナカニシヤ出版)。最近の主な委員として、内閣府「被災者支援のあり方検討会」委員、厚生労働省・内閣府「医療・保健・福祉と防災の連携に関する作業グループ」参考人、熊本市「復興検討委員会」委員など。



田村太郎氏

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事

復興庁復興推進参与

阪神・淡路大震災で外国人被災者支援や復興まちづくりに携わり、2007年「ダイバーシティ研究所」を設立。自治体や企業の施策を通じた人の多様性に配慮のある社会の形成に取り組んでいる。東日本大震災直後に内閣官房「震災ボランティア連携室」企画官に就任。現在も復興庁・復興推進参与として東北復興にも従事している。共著に「阪神大震災と外国人」「つないで支える」「企業と震災」等がある。



藤岡喜美子

一般社団法人子ども女性ネット東海執行理事

公益社団法人日本サードセクター経営者協会執行理事

愛知県避難所マニュアル検討委員会委員

児童施設危機管理アドバイザー、防災士

東京海上火災保険(株)勤務。30代で婦人会長、1999年町議会議員。2004年(特非)市民フォーラム21・NPOセンター事務局長。2009年(公社)日本サードセクター経営者協会(JACEVO)設立コアメンバー。東日本大震災、熊本地震等にて被災地の支援活動を行う。著書は「早わかり子ども子育て支援新制度」「稼ぐNPO」「子どもと女性に安心な任意の小規模避難所開設のためのハンドブック」

防災ファーストペンギン☆おかげさ

地域で活動する女性防災リーダー養成講座修了生 岡崎チーム (一般社団法人子ども女性ネット東海主催)



青山晃子氏

子育て支援団体みんなのわ主宰。乳児親子サークルや小中学生を対象とした学びの機会提供の中で、防災や防犯に対する啓発活動をしている。



荒木歩氏

3児の母。「守ろう子どもと赤ちゃん」代表。いつもの生活に備えをプラスワン。知って・考えて・今日からやろう」を軸に活動中。防災士/乾物防災食講師/災害備蓄管理士



猪飼由美子氏

民生主任児童委員/多世代型子育てひろば「和の家」では、保育士、子育て支援コーディネーターとして相談やサポートをしている。



月東佳寿美氏

認定NPO法人葵風理事長 児童計画相談支援事業、障害児通所支援事業、保育所等訪問支援事業等、「いわづハウス」を中心に子ども食堂、学習支援、よろず相談などを開催している。



小松恵利子氏

一般社団法人子どもと暮らし ii ねっと代表理事、保育士、原発事故後、実家のある岡崎市に小中高生3人の息子と避難。2020年託児室「みんなのおうち連尺」を開設。



山本有希子氏

姉(13)妹(2)の母。次女がダウン症で生まれてきたことをきっかけに、ダウン症児家族が交流できる場所「korin」を月に1度、お寺の本堂を会場に開催している。



和出みゆき氏

日常は包括支援センターで高齢者支援の仕事をしている。薄くなった地域の繋がりをどうやって再構築するか。仲間と活動する。

一般社団法人子ども女性ネット東海について

子どもと女性目線で、日頃より防災・減災の活動として「たすかる」活動を行う。また、被災地も含め「たすける」活動を行う。私たちの活動は被災地外の災害NPO等によるレスキュー的な活動ではなく、災害発災後、地域のNPO等や専門家がつながり、できるだけ早く日常に戻すための活動です。

<災害時子どもと女性に安心な任意の小規模避難所ネットワークづくり>

みなさん、想像してみてください！余震が続く中、子どもを抱え安全を確認しながらの避難所に向かいます。

そして避難所は200人から500人というたくさんの方でごったがえしています。一般的に指定避難所は学校の体育館です。

体育館は広く大きく、人が一緒に食事をし、寝起きを共にするためにつくられた施設ではありません。そばにいる大人の不安を感じ取り、甘えることもできず、子どもにとって指定避難所は「我慢をする」場です。救援物資で音がでるおもちゃが届き、そのおもちゃで遊ぶと「うるさい！」と怒鳴られます。静かに過ごしたい高齢者もみえます。性犯罪の心配もあります。大切なことは「できるだけ早く日常を取り戻す」ことです。

子どもが泥団子をつくって遊ぶ、妊婦さんが安心して授乳できる場所がある。このような避難所があればどんなに安心でしょうか。今私たちにできることがあります。皆さんの近くに任意の小規模避難所の開設準備ができる場所はありますか。互いに連携・協力して、子どもと女性が安心して避難生活がおくれるように準備を始めませんか。そして障がいのある方、高齢者の方、外国人の方などに安心な小規模避難所が地域にたくさんあれば、インクルーシブな避難所がある地域となるでしょう。

たすかる犬



たすける犬

